



学校だより第3号

令和8年5月29日

新宿区立戸塚第三小学校



# ながれ

今年度は開校101年目です

「子どもを“みる”ということ ～7つの「みる」が教えてくれること～

生活指導主任 主幹教諭

5月に行ったOJT研修(校内での教員研修)では、「子どもを“みる”とはどういうことか」をテーマに、先生方と一緒に考える時間を持ちました。日本語の「みる」には「見る・観る・診る・視る・看る・察る・鑑る」などの漢字があり、それぞれに異なる意味をもっています。この視点は、ご家庭でのお子様との関わり方にもきっとお役立ていただけたと考え、今回ご紹介させていただきます。

「見る」は、目に映る事実をありのままに捉えること。「帰宅後、いつもより口数が少ない」と気付くことが、すべての出発点です。「観る」は、変化を継続して追うこと。「先週より笑顔が少ない」「友だちの話をしなくなった」——“点”ではなく“線”で子どもを捉えます。「診る」は、「なぜそうなっているのか」と背景を考えること。「視る」は、「今日は帰宅後の様子をしっかり確認しよう」と、意図をもって目を向けること。「看る」は、あえて言葉をかけず、傍に寄り添い見守ること。「察る」は、「別に」と答えながら目が赤い、いつもより元気に振る舞っているが実はつらそう——そんな言葉にならないSOSを、表情や仕草から読み取ること。そして「鑑る」は、これまでのお子様の歩みや姿と照らし合わせながら、今の状況を判断することです。

これらの「みる」は、決して特別なことではありません。毎日の何気ない関わりの中で少し意識を向けるだけで、子どもが発しているサインに気づくことができます。「なんとなく元気がない」という保護者の皆様の直感は、とても大切なものです。学校でもこの7つの視点で子どもたちを日々見守り、指導しています。気になることがあれば、遠慮なく学校へご連絡ください。

## 一生の思い出、日光移動教室

6年担任

2泊3日でたくさんのお話を学びました。振り返りの中から一部ではありますがご紹介します。

- 日光東照宮という長い歴史が詰まった場所に行けてよかったです。「見ざる・言わざる・聞かざる」にも深い意味が込められていることを知り、歴史について興味がわき、家族にも伝えたいと思いました。
- 日光東照宮では、徳川家康が祀られている世界文化遺産に触れました。400年ほど前につくられた建物だが、現在でも変わらない美しさをもっていると感じました。雨に濡れた東照宮は風情がありました。
- 戦場ヶ原ハイキングでは、ガイドさんがいろいろなことを教えてくれて、自分でも環境を大事にしていけないといけないと思いました。
- 日光で鹿が木の皮を食べることが食害だという看板があり、木が減り、鹿が増えているのは我々人間が環境破壊をしているからであることを学びました。改めて現在の地球の状態について考えることができました。
- 湯患山荘のお風呂は熱かったけど、体の疲れが取れた気がしました。宿のごはんはすごくおいしかったです。
- 友達の大切さと改めて本当の友達について分かった気がします。本当の友達とは傷ついた人の心や体に最後まで寄り添うことだと思いました。今までの私達にはそれが足りなかったと思います。だから日光移動教室で学んだことを糧に、これからの1日1日を大切に生きていきたいです。
- この1年間で誰一人欠けることなく卒業したいと改めて実感しました。先生のクラスで過ごすことがよかったです！！